



安心できる柳町こどもの森作り

保育長 川井 直子

街路樹のツツジの花が咲き始め緑がまぶしい5月になりました。少しずつ新しい環境に慣れ子どもたちの笑顔も増えたように感じられます。

ひよこ組は、登園時、保護者から離れることが嫌で泣いている姿に、保育者が「バイバイいやだったね」と悲しい気持ちを言葉にすると、保育者の目を見つめて頷く姿がありました。まだ言葉で伝えることは難しいけれど、自分の気持ちが保育者に伝わったことを安心し、保育者の表情や言葉掛け、遊んでいる姿を真似て、お子さんのペースで安心出来る人、場所が広がってきています。

私たち、職員が常に大切にしていることは、一人一人の子どもの気持ちに寄り添い信頼関係を築いていくことです。乳幼児期は生涯にわたる人間形成の基礎が培われる重要な時期です。「わたしのことを見てくれる」「わたしの気持ちを分かってくれる」という安心感を土台に、その子らしい主体的な遊びを尊重していきたいと思っています。また、乳幼児期は保育者からの援助を受けながら、自分で出来ることが増え、生活習慣の自立も習得する時期です。園での様子を保護者の皆様と共有しながら、子どもたちのやろうとする姿、挑戦しようとする姿を共に認め、子どもたちを支える両輪になればと思います。保護者の方と職員と同じバランスで支えることで、子どもたちは安心して前に進めます。保護者の方が何か気になることや不安なことがありましたら、共有して頂き、一緒に考えていきたいと思っています。

園庭工事は続きますが、プール広場やテラス、ホール、散歩など、体を動かして遊ぶことを職員で工夫して取り入れ、子どもたちの健やかな成長のために、活動量を増やしていきます。

急な気温の変化から体調を崩しやすい時期になります。保護者の皆様と一緒に、睡眠、食事水分補給を大切にお子さんの健康管理にも努めていきます。



プール広場



テラス



みんなのひろば



ベランダ